

東海市循環バスの見直しの検討について

1 循環バスの現在の課題

(1) 通勤・通学の需要について

通勤時間帯（早朝、夕方）の渋滞の影響を受け遅延する等、通勤・通学利用者の需要に応えられておらず、高齢者の利用する日中と比べ、朝夕の利用が少ない。

(2) ダイヤの遅延と安全運行について

高齢利用者の増加により、乗降時間の増加に伴うダイヤの遅延が頻発している。遅延解消のため、ゆとりのない運行となり、立席利用の高齢者の転倒が懸念される。

※参考：ルート別の現状

【北ルート】 現行の循環バスにおいて、最も利用者の多いルートであり、慢性的な遅延が発生している。

【中ルート】 中型車両を用いているため、立席利用は見られない。遅延の発生も少ない。

【南ルート】 現行ダイヤの第1・2便において、横須賀ICや臨海部へ向かう一渋滞の影響を強く受け、遅延が頻繁に発生している。また、市役所までの延伸が強く望まれている。

2 循環バスの見直しの方向性（案）

※前提として車両は現行のものを想定

(1) 通勤・通学需要への対応

朝（概ね7～9時）及び夕方（概ね17～19時）の便を、通勤・通学を意識し、現行の循環ではない、住宅地と駅を直接結ぶ、1運行あたり1時間程度の形態とすることにより、現行の循環バスで利用者の少なかった時間帯での利用増を図る。＜別図参照＞

【メリット・デメリット】

1時間程度（片道30分程度）になるため、利便性が向上し、新たな利用者層の掘り起こしが可能になるが、走行区間が限られるため特定の地域しかカバーできない。

(2) 安全運行の確保及び利便性の向上

利用者（特に高齢者）の多い日中の時間帯について、慢性的な遅延の解消及び運行上の安全を向上させる。

【見直し案】

- ① 一周あたりの運行時間を延ばし、遅延状況を改善する
- ② 一周あたりの運行時間は据え置き、利用者の少ない区間を中心に路線を縮小する

【メリット・デメリット】

- ① 全体的にゆとりが生まれ、安全運行が可能になるが、一周当たりの時間が今以上に長くなるため、利便性の低下や運転手への負担がかかる
- ② 全体的にゆとりが生まれ、安全運行が可能になるが、バス停の集約や路線の縮小等により走らない地区ができてしまい、従来の利用者が利用できなくなる。